

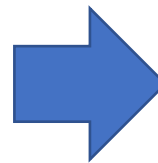
電子メールサービスの クラウドサービスへの移行について

(前半:移行の概要・データ容量削減)

ICT基盤センター

これまでの本学のメールサービス

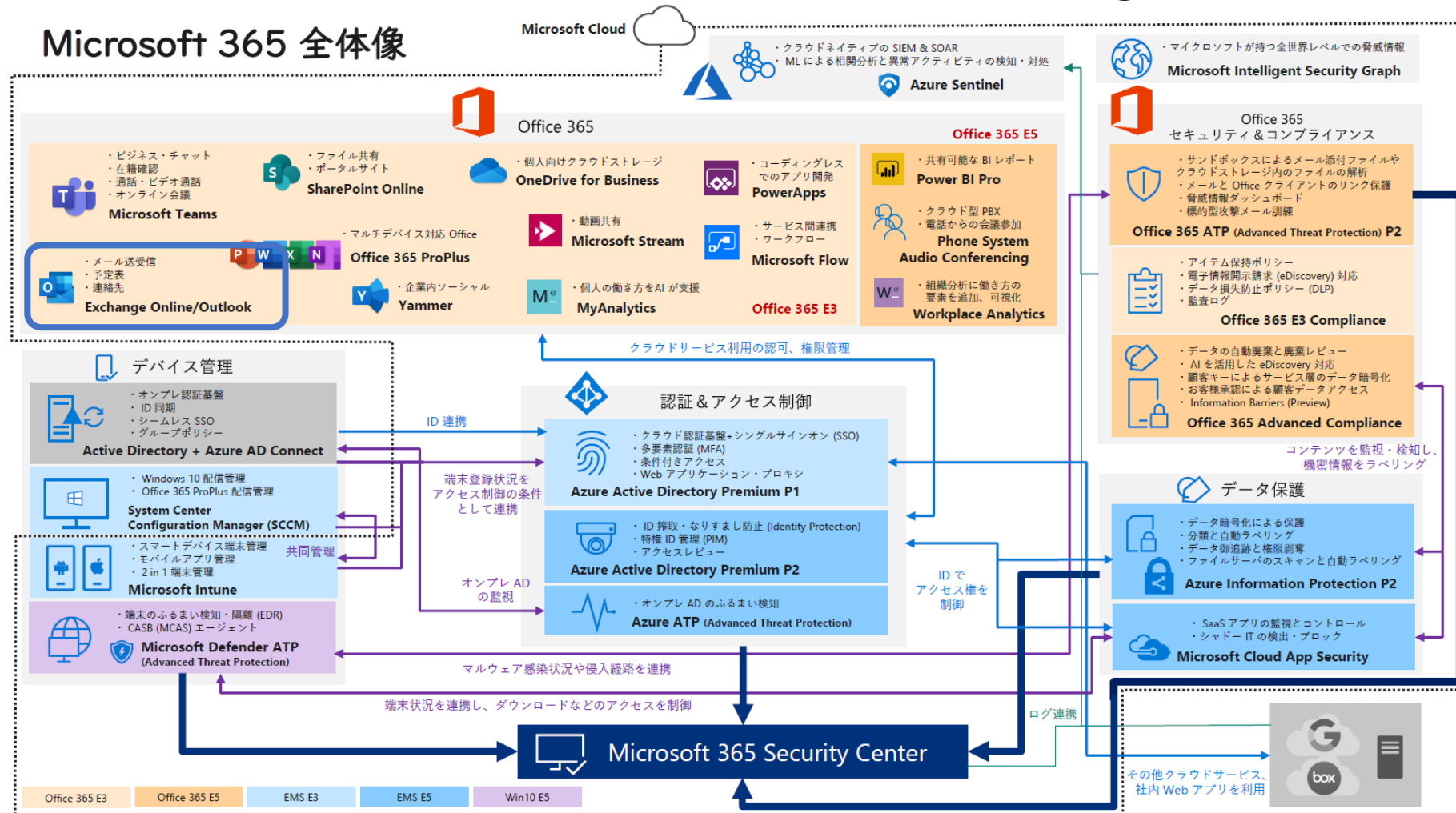
- 平成6年に教職員向けのメールサービスの提供を開始
- 自前でサーバを所有・管理する方式(オンプレミス方式)で運用
 - 商用ソフトウェアを利用
- オンプレミス方式での運用の限界
 - 最新のセキュリティ対策への対応
 - アカウントが破られる事象も発生
 - 可用性の向上
 - 老朽化や性能上の限界
 - 拡張性の限界, 調達方法の制限
 - 現行システムを継続して使い続けた場合, 秋には記憶容量の限界に
 - ソフトウェア・開発会社の継続可能性
 - 管理運用コストの増大(運営費用の削減)



クラウドサービスによる
サービスの提供へ移行

移行先クラウドサービス: Microsoft社Office 365サービス(Exchange Online)

※すでに学生用メールサービスで利用



サービス移行による改善点

- 一人あたりのメールストレージは50GBに
 - 現在は教職員一人あたり約4GB強
- 専用プロトコル(Exchangeプロトコル)により設定が容易に
 - メールソフトの設定等が自動化・既存プロトコルも利用可能
- 多要素認証に対応
 - 今年度から順次導入予定, 中期計画期間内に強制実施予定
- PC, スマートフォン(Android, iPhone)専用アプリあり
- 24時間体制での不正アクセス等の監視・検知
- 随時のサービス改善
- クラウドサービスによる可用性, 動作速度の向上
 - IT-BCP対策

サービス移行による変更点

- クラウドサービスに移行するため
 - お使いのメールソフトの設定変更が必要
 - メールアドレスは変更はありません
 - 利用時に使用するIDが「長大ID」から、「長大ID」に共通の文字列を加えたものに変更
 - パスワードは, これまでと同じ, 長大IDに紐付いたパスワードです
 - 要は, Microsoft社のOffice 365サービスを利用するアカウントになります
 - メールサーバのホスト名も変更
 - Webメールの接続先(ログインするための)URLも変更

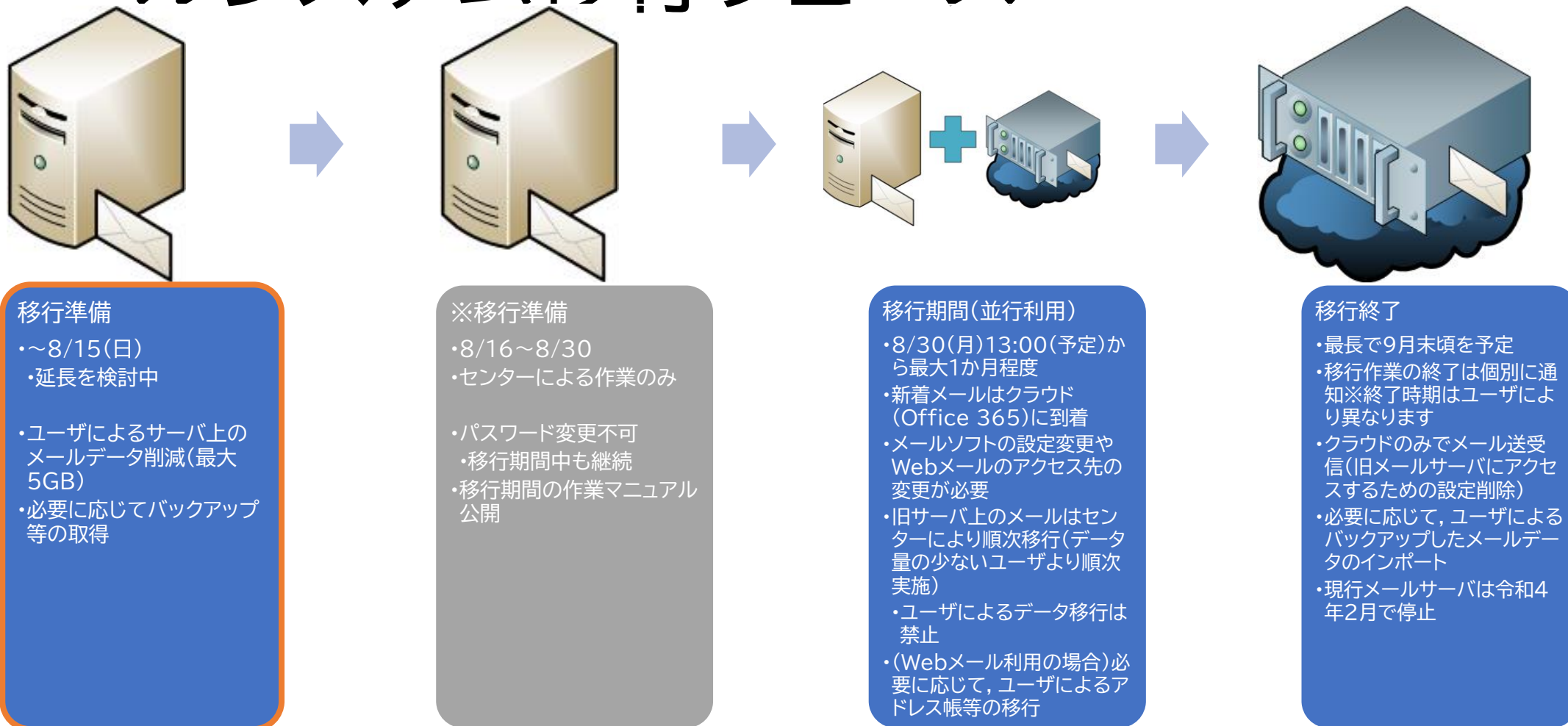
詳細は8/23の週の説明会で説明

サービス移行によりお願いすること

- メールデータは本センターで移行
- ただし **本日の説明会の内容**
 - 作業時間短縮と安全確保のため、現行のメールサーバに格納されたメール容量の削減
 - 仕様の違いによる移行不可なデータや移行時のトラブルが発生する場合に備え、重要なメールについて事前のバックアップにご協力ください
- メールソフトの設定変更
- Webメールの個人アドレス帳, メール振り分け設定, SPAM設定, 自動応答設定の移行

詳細は8/23の週の説明会で説明

メールシステム移行フェーズ



■はユーザに作業をお願いするフェーズを示す。■が現在のフェーズを示す

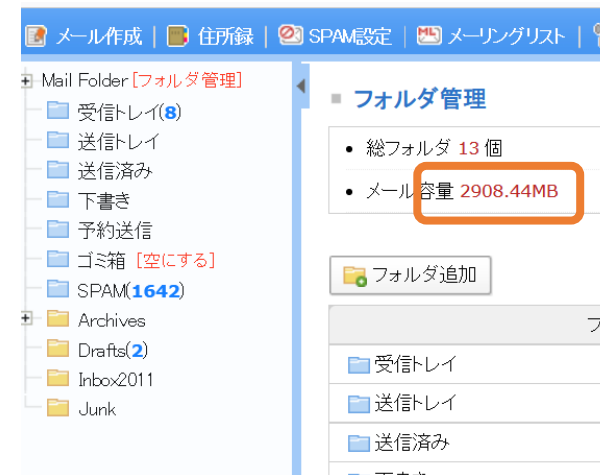
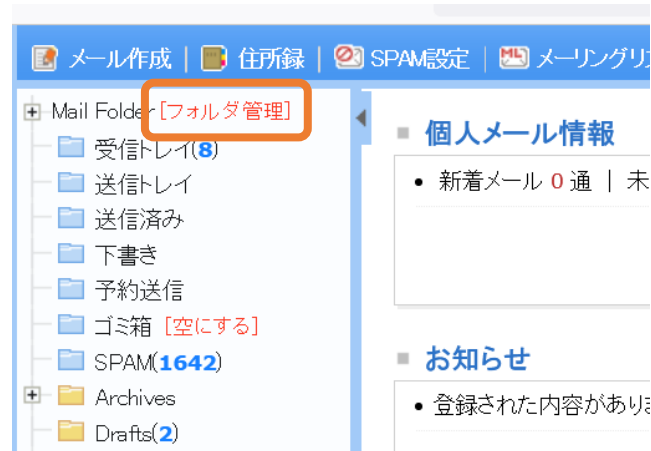
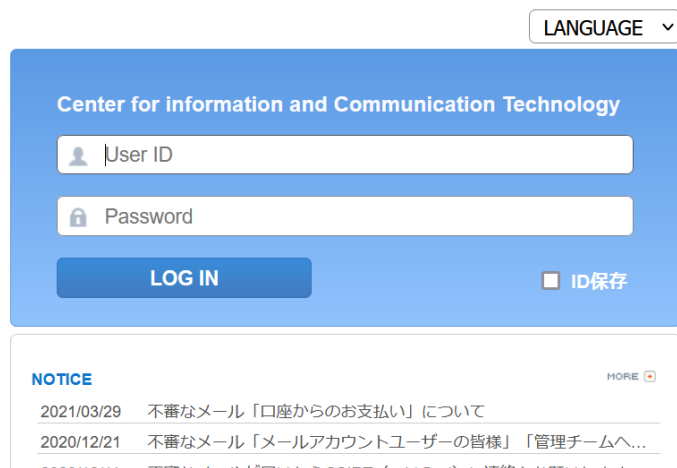
なぜ容量の削減が必要なのか

- オンプレミスからクラウドへの移行という大きな変化
 - データ転送はインターネットを経由しなければならない
 - 異なるシステム間であるため、標準的なプロトコルでの転送が必要
⇒オンプレミス間の移行に比べ転送速度は低速
- 移行期間中、各ユーザ新・旧二つのシステムの並行利用が必要
 - メールデータの転送に要する時間の短縮
⇒転送を必要とするデータ容量の削減が必要
- メールによるファイルの共有を見直す契機
 - 情報漏洩対策
 - デジタルトランスフォーメーション(DX)推進

現在のデータ容量の確認方法

- 現在のWebメールにログイン
- 「フォルダ管理」をクリック
- 「メール容量」が現在のサーバに格納されたデータの容量
 - 5GB(5,000MB)以下になるように(バックアップ・)削減

マニュアルは
ICT基盤センターのWebに掲載



参考： メールの送受信方式によるデータの格納場所

- POP方式
 - 受信したメールも送信したメールもローカル(PC)に保存
 - ネットワークに繋がらない状態でも既存メールが確認可能
- POP方式(「サーバにもメールを残す」設定あり)
 - 受信したメールも送信したメールもローカル(PC)に保存
 - ネットワークに繋がらない状態でも既存メールが確認可能
 - メールサーバにも受信したメールが残る
 - 残す期間や容量はメールソフト側の設定による
 - メールサーバには受信フォルダのみ:その他のフォルダはローカルに
- IMAP方式
 - 受信したメールも(一般には)送信したメールもメールサーバに保存
 - ネットワークに繋がらない状態で既存メールが確認可能か否かは, メールソフト側のキャッシュ等の設定(期限や容量など)による
 - メールサーバ上に複数のフォルダが持てる
- Webメール方式
 - 受信したメールも送信したメールもメールサーバに保存
 - ネットワークに繋がらない状態では既存メールは確認不能
 - メールサーバ上に複数のフォルダが持てる

現在のWebメールを用いたバックアップの取得方法

※バックアップに要する時間やトラブル回避の観点からこの方法をおすすめ

マニュアルは
ICT基盤センターのWebに掲載

- 「フォルダ管理」をクリック
- バックアップを取得したいフォルダの「エクスポート」をクリック
 - バックアップの内容確認後、「空にする」ことも可能

• メール容量 2908.44MB

フォルダ追加

フォルダ名	メール数	未読	サイズ	保存期間	修正	削除	空にする	エクスポート	インポート
受信トレイ	8952	8	641802KB						
送信トレイ	0	0	0KB						
送信済み	2215	0	300339KB						
下書き	0	0	0KB						
予約送信	0	0	0KB						
ゴミ箱	0	0	0KB	365日					
SPAM	1647	1642	42752KB	183日					
Archives	0	0	0KB						
2019	8114	0	892841KB						
2020	15320	0	1086551KB						
Drafts	78	2	5051KB						
Inbox2011	0	0	0KB						
Junk	95	0	8916KB						

※基本フォルダ(受信トレイ、送信トレイ、送信済み、下書き、ゴミ箱、SPAM)は、修正/削除することができません。

バックアップのファイルについて

- 前ページの方法で取得したバックアップファイルの構造
 - メールが1通ごとにeml形式で格納
 - これをzipファイルに圧縮
- メールソフトThunderbirdの場合, ドラッグアンドドロップでローカルフォルダに取り込める
 - 移行完了後, 新サーバに格納することも可能

詳細は8/23の週の説明会で説明

移行順序

- データ容量の少ないユーザから移行
 - 転送時間の総時間の短縮
 - 移行作業が完了した方へ個別に作業完了の旨を通知
 - 通知を受けられた方は移行期間は終了



容量が5GBを超えていたら？

- 移行作業開始時に容量が5GBを超えていても移行作業は実施
 - 新・旧のメールサーバを並行利用していただく期間として1か月程度を想定
 - 現在5GBを超えている方(全ユーザの約19%の方)に, 削減に協力いただくことを前提に算出
 - 全ユーザの容量が想定どおり減らない場合, 全体の移行期間が1か月より延び, 新・旧のメールサーバを並行利用し続けていただくことになる
 - 旧(現行)メールサーバが全体としての容量の限界に達した場合, もしくは, リース期限(令和4年2月末)を迎えた場合, 移行作業が完了しない状態でも, 運用の終了を迎えることとなる
- ⇒ご本人はもちろん, 他の教職員にも多大な迷惑をかける可能性
- メールデータ容量については, 5GBまでの容量削減にご協力を
 - 学内での情報共有等については, 添付ファイル等ではなく他のツールを活用するなど, デジタルトランスフォーメーション(DX)推進にもご協力を

これからお願いすること

- 移行期間中: 8/30(月)13:00(予定)以降
 - メールソフトをお使いの場合は, メールを送受信するサーバの設定等の切替
 - 移行完了までの間は, 必要に応じて新・旧のサーバ両方にアクセスする設定が必要
 - Webメールをお使いの場合は, アクセスするためのURLが変更
 - 新・旧両システムにアクセスすることが必要
 - 新メールシステムで, アドレス帳の設定等も可能
 - ユーザのみなさまによる個別のメールデータの移行作業は禁止
- 移行完了後
 - 移行作業が完了した方へ, 個別に作業完了の旨を通知
 - 必要ならバックアップデータのインポート等
 - 旧メールシステムへのアクセスは不要
 - メーリングリストの管理のみ継続して旧システムを使用

詳細は8/23の週の説明会で説明

メール移行FAQより抜粋

Q4. なぜ、本人によるメールデータの移行をしてはならないのか.

A4. (一部略)ユーザのみなさまが個別に移行をされると、移行作業の転送速度が落ちるとともに、過負荷によるメールシステム全体の障害発生のおそれがあります。また、ユーザのみなさまの移行と本センターの移行作業のコンフリクトにより、同じメールがそれぞれ複数表示されるなどの事象も発生します。ユーザのみなさまによるメールデータ移行作業はおやめいただき、本センターによる移行作業をお待ちください。

メール移行FAQより抜粋

Q6. メールデータのバックアップのため、現行のWebメールから、バックアップを取得したがマルウェアが検出された、これはどういうことか。

A6. メールを受信された時点では、添付ファイルやスクリプトがマルウェアと認識されていなかった場合でも、時間の経過により(パターンデータ等認識技術の向上により)お使いのPC上のマルウェア対策ソフトにより、マルウェアが含まれていると確認されることによります。

バックアップデータはzipファイルになっておりますが、メールは一つ一つ個別のファイルとなっています。マルウェアが検出された場合は、ファイルをダブルクリックする(開く)ことはせず、マルウェア対策ソフトにより、削除してください。

メール移行FAQより抜粋

Q8. メールシステムを移行するとのことであるが、メーリングリストの管理はどのようなになるのか.

A8. 今回のメールシステム移行は、利用者のみなさま個人に割り当てられたメールアドレスに関するシステム移行となります. メーリングリストの管理については、引き続き来年2月末まで、現行のWebmailシステムを用いてメーリングリストの管理を行っていただくことになります.

もし、個人のメール読み書きの手段としてもWebmailをお使いの場合は、メールシステムの移行日以降、個人のメール読み書きの手段と、メーリングリストの管理の手段としてのWebmailは、異なるシステムに別にアクセスしていただくことになります.